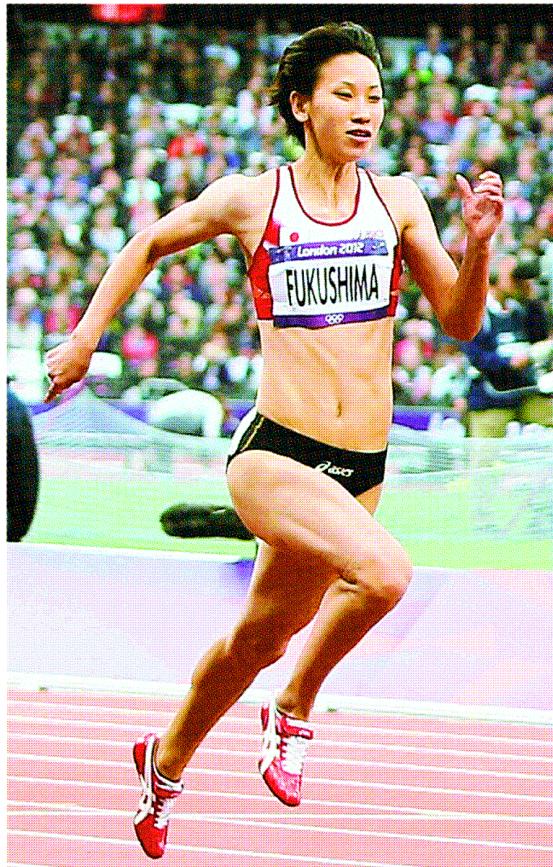


福島 2度目の五輪は不完全燃焼



女子100m予選で力走する福島千里(33)=33日、ロンドン(時事)

**陸上3種目
予選で敗退 得意のスタート不調**

幕別町出身で、陸上競技日本女子短距離界を代表する福島千里（北海道八戸市）は、ロンドン五輪は、出場した3種目とも予選を突破できずに終わった。今季のレースでしつくりときていなかつた得意のスタートが、最初の種目の100mでも本領を発揮できないまま。その後も立直すことができず、2大会連続の五輪はぼろ苦い結果となつた。4年に1回の大舞台に照準を合わせる難しさを感じさせた。

4年に一度 照準合わず

「内容より過程で反省」

前回の北京五輪で日本人女子として100mに56年ぶりに出場して以降、福島は着実な歩みをみせていた。2010年に100mで11秒21、2011年に22秒89の日本記録を樹立。11年の世界選手権で両種目とも準決勝に進んだ。今季は世界の決勝クラスと言われるスタートが不調。本人が「自分のレースの中で最も大切で、そこ（スタート）がうまくいかなければ、全体の走りも良くならない」と話すほど、キーになる部分だ。

不安を抱えたまま迎えたロンドン五輪。100m予選では11秒41で組5着、全体で32位となり、準決勝（24位まで）に進めなかつた。スタートのリアクションタイムは0・152秒と組で3番目。道ハイテクAC（恵庭）の中村宏之代表によると、五輪前の練習では非常に良い状態だつただけに、「70%と消化不良の走りだつた。スタートは気持ちの問題。国内の1大会でも11秒1、2で走つて臨んでいれば違つた結果になつたかもしない」と悔しがる。

(北雅貴)

3日後の200m予選は、自身の持つ日本記録より1秒25も遅い24秒14。リアクションタイムは0秒141と52人中トップだったが、走りは硬く後半は足が前に出づに伸びなかつた。1964年の東京五輪以来48年ぶりに出場した400mリレー予選は3走を務め、44秒25で1組の最下位を最後まで断ち切ることがでまくいかなければ、全体の走りも良くならない」と話すほど、キーになる部分だ。

不安を抱えたまま迎えたロンドン五輪。100m予選では11秒41で組5着、全体で32位となり、準決勝（24位まで）に進めなかつた。スタートのリアクションタイムは0・152秒と組で3番目。道ハイテクAC（恵庭）の中村宏之代表によると、五輪前の練習では非常に良い状態だつただけに、「70%と消化不良の走りだつた。スタートは気持ちの問題。国内の1大会でも11秒1、2で走つて臨んでいれば違つた結果になつたかもしない」と悔しがる。

五輪前に事あるごとに言つていた「1本でも多く走りたい」という目標はかなえられなかつた。「レース内容より、過程で反省することがある」と振り返つた福島。ピーケ期を合わせることができなかつた悔しさを感じました。

中村代表は4年後は200mを主戦場と考えている。「スタートとコーナーリングのうまさに持久力もある。世界で戦える能力は十分にある」と話す。福島も「リベンジしたい」と意欲をみせており、ロンドンの経験を今後の成長につなげられるか注目される。